

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	東海道かわさき宿交流館	評価対象年度	平成27年度
事業者名	川崎市文化財団・川崎市観光協会グループ <代表団体> ・公益財団法人 川崎市文化財団	評価者	地域振興課長
指定期間	平成25年9月1日～平成30年3月31日	所管課	川崎区役所地域振興課

2. 事業実績

利用実績 (単位:人)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計													
	3,606	4,608	3,469	3,555	3,188	3,225	4,947	6,126	4,061	3,611	5,530	4,931	50,857													
収支実績 (単位:円)	収入		入場料収入		282,000		施設利用料収入		2,079,870		指定管理委託料		38,835,713		物販販売収入		2,626,573		その他		571,951		計		44,396,107	
	支出		人件費		18,049,580		物品販売原価		2,904,624		委託料		11,074,521		光熱水費		2,172,666		その他		8,034,761		計		42,236,152	
			収支差額		2,159,955		※																			
			■体調が悪化した方に対して、常備していた毛布とアイスノンまくらを使い簡易ベッドで休んでいただいた結果、回復した事例があった。過去に病人が発生したときの結果を踏まえて、購入をしていた簡易ベッドなどが役にたった事例であり、適切な対応であり、評価できる。 ■団体利用客などに対して添乗員と連携して、館内に混乱をきたさないよう誘導補助を行うなど、館の安全適正管理運営に努めている。 ■ニーズに応じ開閉時間の延長などを他との公平性のバランスを考慮しつつ行っている。																							
			サービス向上の取組																							

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
総合的な運営状況	基本方針	施設の理念を尊重し、文化施設としての役割や目的を果しているか。	5	4	4
	事業成果	事業実施による成果の測定・検証が適切に行われているか。	5	3	3
	(評価の理由) ■元川崎市民家園園長である「三輪修三」氏の過去の講義録などを読みやすく編集し、「川崎宿登場」として販売し、館の設置目的である東海道川崎宿に関する情報の収集及び提供を行った。 ■アマチュア落語団体や、地域の俳句会、東京大衆歌謡楽団、麦わら細工伝承団体「麦人の会」などの文化団体などへ広報などの活動支援を行った。 ■総合的な運営として、館の設置目的に沿った取組が行われていると認められている。				
管理業務の実施状況	維持管理等の再委託	施設利用提供に支障をきたすことが無いよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に行っているか。	5	3	3
	利用料金	公平性・平等性及び受益者負担について留意し利用料金の設定を行うとともに、利用者の利便性や利用サービスの向上を図っているか。また、遺漏のない金銭管理を行っているか。	5	3	3
	個人情報保護や情報公開	個人情報の保護や情報の公開を適切に行っているか。	5	3	3
	利用促進	施設の利用促進に向けた取り組みが成されているか。	5	4	4
	人員配置	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備され、円滑な施設運営に必要な人員配置(資質・ローテーション等)を行っているか。	5	4	4
	人材育成	各種研修等を行うなど、人員の資質の向上を図っているか。	5	3	3
	危機管理	利用者の安全の確保及び有事の際の適切・迅速な対応のための危機管理体制がとられているか。	5	3	3
	セルフモニタリング	業務の履行状況を確認するためのセルフモニタリングが徹底されているか、また改善点についての実施がなされているか。	5	4	4
(評価の理由) ■集会室の利用者は、26年度の44%と比較をするとH27年度は43.7%とほぼ横ばいであったが、第1・2集会室ともに個別にプロジェクターを利用したい希望がある事から、2台常備するなど利用者への快適な環境整備に努めている。また、全体の来館者数は5万人を超え、H26年度よりも上回っており評価できる。 ■仕様で定められた人員を配置し、かつボランティア団体による常駐ガイドによる来館者への人的対応について、来館者によるアンケート評価が高い。 ■セルフモニタリングの結果を職員全員で共有している点は評価できる。利用者意見に基づき、案内表示やトイレ個室の全室へ荷物架けフックを設置するなど細かい配慮がされており評価できる。					

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
事業実施状況	企画展示等に関する業務	歴史・民俗・文化に関する魅力的な展示・企画展が行われているか。	5	5	5
	受付等案内業務	適所に常時必要人員が配置されているか。	5	4	4
	広報宣伝等に関する事項	利用者増に繋がるような効果的かつ戦略的な広報がなされているか。	5	4	4
	利用者意見等の把握に関する事項	利用者意見を把握し、意見を反映する対策がとられているか。	5	3	3
	ボランティア等の育成	地元のNPO法人や・ボランティア団体の人材活用がなされているか。	5	4	4
	物販・自販機等販売に関する事項	施設の目的や設備に合致した内容であり、かつ来館者増に繋がる魅力的なものか。	5	4	4
	地域・市民等との連携に関する事項	地域に根ざした施設の管理運営に留意し、地域との連携を推進しているか。	5	4	4
	自主事業に関する事項	自主事業は、市民が広く利用できる又は参加できるものとなっているか。	5	4	4
(評価の理由)					
<p>■年4回以上と定めた企画展について、8回開催した。こどもに親しみやすい切り絵や手工芸品の展示から、通常展示「ゆかりの人物」で紹介する佐藤惣之助展や現代アートなど幅広い企画展示を実施しており、リピーター増につながっており、大変評価する。</p> <p>■聴覚障害用の資料については、ニーズに応えた取組として評価する。ふれあいネットについては、トラブルなく適正な処理対応を実施している。</p> <p>■福島をテーマとした写真展の開催など歴史文化分野とは異なるテーマを題材とした企画を実施し、平常時とは異なる客層の誘因にもつなげた。また、積極的なブログの活用によりHPへのアクセス増につながっており、安定した来館者の要因となっている。さらに、FMかわさき、JR川崎駅の大規模ビジョン(アジアビジョン)やアジアにある広報コーナーなども活用し、積極的な広報をおこなった。</p> <p>■ボランティア養成講座の実施により、当館のボランティア団体であるかわさき歴史ガイド協会の会員増に大きく寄与しており、評価できる。</p> <p>■積極的な販促の効果もあり「広重 東海道五十三次」冊子のおおよそ2000冊を販売し40万円ほどを売り上げた。また、初版3,000部が完売したため新たに5,000冊を増刷した。(費用おおよそ150万円)※</p> <p>■地域主催のイベントに積極的に協力をした。具体的事例としては、地域活動団体である「東海道川崎宿2023」にもH28年度より参加するなど、地域活動の拠点としての積極的な地域連携は評価できる。また、地域イベントにおいては、敷地内の屋外スペースを積極的に活用した。</p> <p>■東海道の他宿場との交流を図る東海道シンポジウム全国大会見聞大会や東京・神奈川ブロック会議などにも積極的に参加した。その際に構築した人脈を生かし、静岡大学名誉教授の本多隆成氏を講師として招き、1月に「近世東海道と川崎宿」の講演会を開催した。そのほか恒例の江戸の粋に遊ぶシリーズや街道講演シリーズやこどもを対象としたワークショップなど、多様な自主事業を実施した事が評価できる。また、1年間で日本橋～箱根までを踏破する東海道ウォークにおいては、宮前区のボランティアガイドと連携をし、事業を実施した。</p>					
収支状況	安定性	収支計画に基づく安定した運営を行っているか	5	3	3
	効率性	サービスの維持・向上に留意した上で効果的・効率的な予算執行が図られているか。	5	4	4
	(評価の理由)				
<p>■効果的・効率的な予算執行により、当初予算に対する光熱水費、印刷製本費などの大幅削減がされた上で、仕様書以上の取組の実施、さらに余剰金を活用した自主事業の実施やスタンプラリーでのノベルティの配付など、積極的に黒字部分の還元を行った。</p>					

4. 総合評価

評価点合計	73	評価ランク	B
-------	----	-------	---

5. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

<p>■平成25年10月以降、毎年来場者が増加しているのは、飽きさせない多種多様な企画展、地域のエピソードなども聞く事ができるボランティアガイド、また適正な館の運営管理によるものであり、評価する。</p> <p>■仕様書以上に事業を実施した上で、印刷費や光熱費などの効率的執行により発生をした黒字を、自主事業の充実化などに還元した事は大いに評価する。</p> <p>■まちあるきを通じた街全体の回遊性の向上を図るため、県や商店街などとのイベントと積極的に連携をした。また「東海道川崎宿2023」への参加など積極的な姿勢は評価できる。</p>
--

6. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

<p>■来場者増に向け、アンケートの集計などをもとに戦略的な広報や工夫した取組をすること。</p> <p>■自主事業の「江戸の粋に遊ぶ」シリーズについて、来場者増に向け、値下げの検討や若年層の団体を無料で招待するなど工夫をすること。</p> <p>■集会室については、プロジェクター(2基)の常備を例にますますの設備の充実を図ること。また、本施設の特徴をPRするなど利用率の向上に向けた積極的な取組を行うこと。</p> <p>■H27年度に実施した敷地内の屋外スペースを活用した「はちみんどらやき」の配付を敷地の有効活用事例としてHPなどで広く紹介するなど、別の地域活動団体、商店街、文化団体や学校等の新たな取組の誘発につなげること。</p> <p>■東海道シンポジウムや博物館連絡会などに参加をすることで、引き続きネットワークの構築及び企画展示や自主事業の工夫、人材育成につなげること。</p> <p>■ワークシートがより活用されるよう、学校への広報を引き続き行うこと。</p> <p>■利用者からの要望に対しての対応実績について、掲示板や電子媒体などによりお知らせするなど引き続き工夫をすること。</p>
--